

## 2006年 月刊『HOUSING』調べ 注文住宅と住宅設備に関する動向調査

2007年3月19日

株式会社リクルート  
住宅カンパニー

ハウジング&amp;リフォームディビジョン

月刊『HOUSING』では、注文住宅建築者の建築実態を把握するために、「注文住宅と住宅設備に関する動向調査」を毎年実施しています。2006年の傾向がまとまりましたので、経年比較とあわせてご報告いたします。

### << TOPICS >>

- 総建築費用のボリュームゾーンは2000万円台。昨年に比べ平均金額が159万円ダウン。  
..... P4
- 家を建てる以前の居住形態は「集合住宅・賃貸」が最も高く、半数近くを占める。  
ここ3年間で「集合住宅・賃貸」が増加し、「戸建住宅・持ち家」が減少する傾向にある。  
..... P5
- 住まいづくりの過程における主導権は、初期段階では「妻」。依頼先選びなど、  
具体的なアクションをおこす段階となると「二人で決める」割合が高くなる。..... P6
- オール電化住宅の普及度は63.7%、エコキュートは52.5%、IHクッキングヒーターは70.4%  
と、いずれもここ3年間で増加傾向。  
..... P7

【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit.jp/support/inquiry\\_press.html](https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html)

# HOUSING

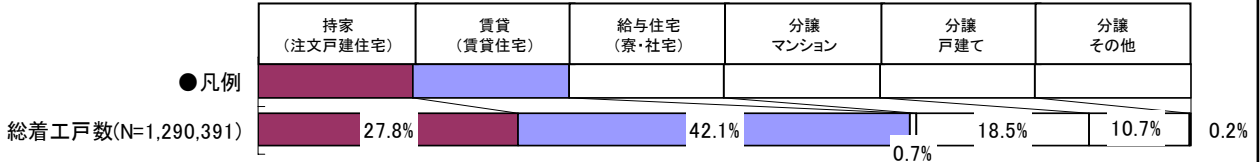
# 調査概要

- 調査目的 ... 1. 注文住宅と住宅設備に関する計画や購入の実態を把握し、関係各社の参考資料とする  
2. 『月刊HOUSING』の今後の編集・企画のための参考資料とする
- 調査対象 ... 『月刊HOUSING』読者で、新築・建て替え済みもしくは住宅メーカー（工務店・建築事務所等を含む）と契約済みの世帯対象
- 調査方法 ... 郵送法（事前にアンケート協力の了承を得られた世帯に発送）
- 調査期間 ... 2006年10月19日～10月30日
- 有効回答数 ... 1. 調査票発送数：1,232票  
2. 回収数：996票  
3. 集計対象数：945票（有効票回収率76.7%）

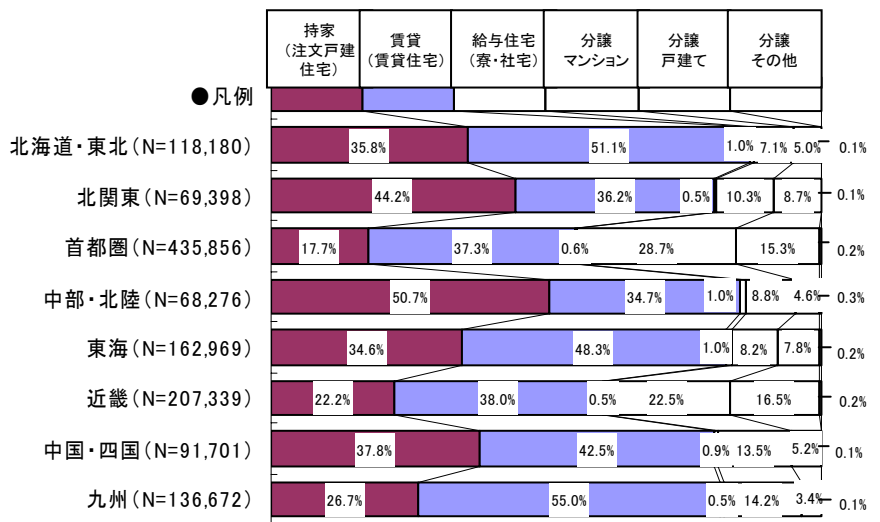
## 《参考：住宅建築マーケット》

\* 国土交通省「住宅着工統計」

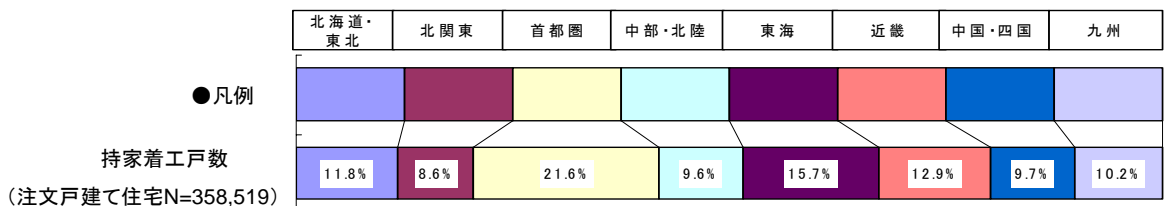
■2006年（1月～12月）新設住宅着工戸数：利用関係別（%）



■新設住宅着工戸数：居住エリア別（%）

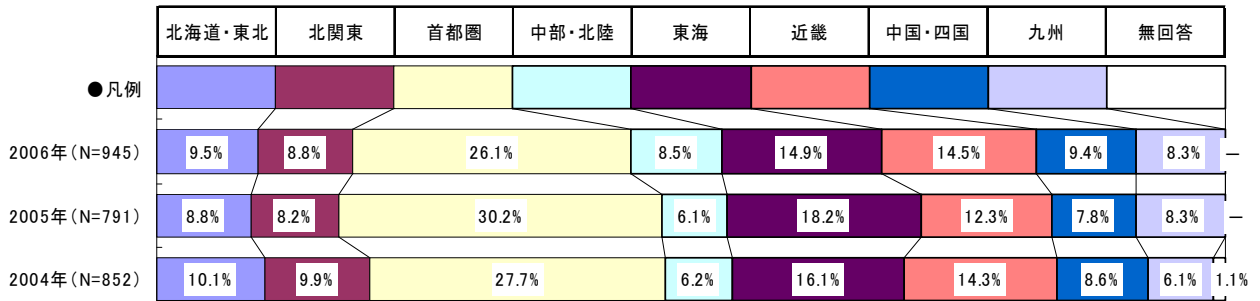


■持家着工戸数：住居エリア別（%）

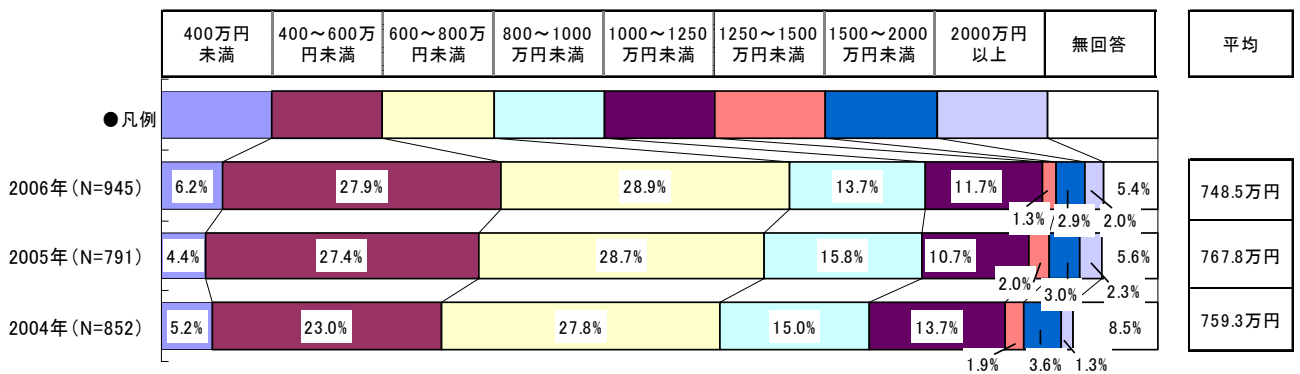


# 回答者プロフィール

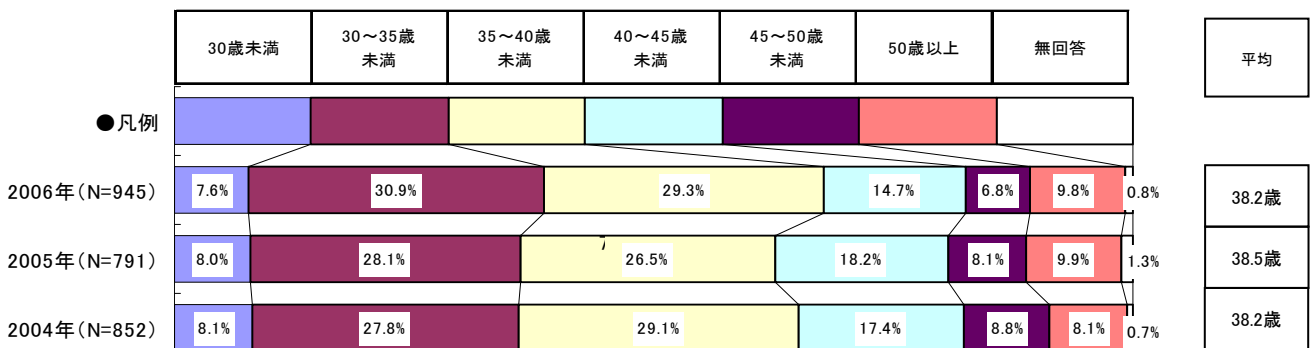
## ■居住エリア(全体/単一回答)



## ■世帯年収(全体/単一回答)



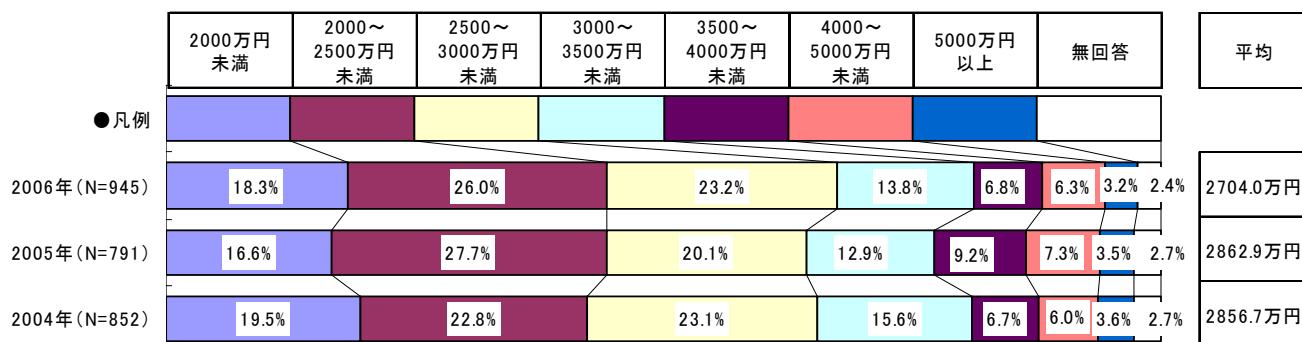
## ■世帯主年齢(全体/単一回答)



## 総建築費用のボリュームゾーンは2000万円台。 昨年に比べ平均金額が159万円ダウン。

●総建築費用のボリュームゾーンは「2000～3000万円未満」。時系列で見ると、2006年は平均金額が昨年に比べ159万円ダウン。

### ■総建築費用(外構費を含む、消費税込み金額) (全体/単一回答)

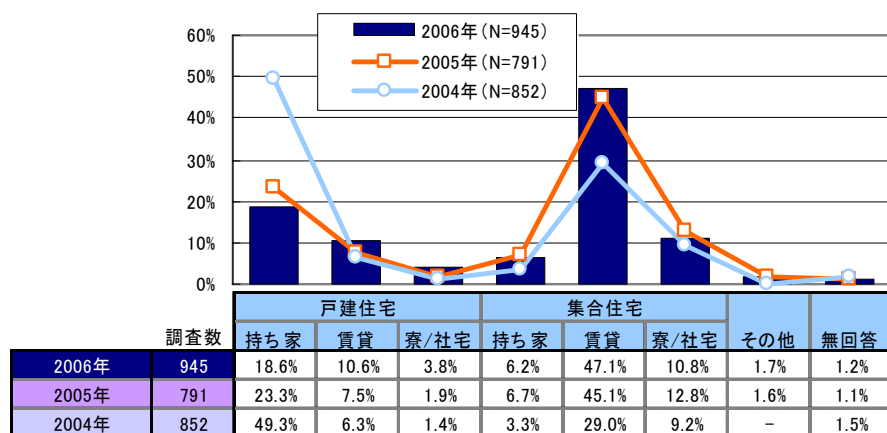


※2004年度は、消費税抜きの費用を集計していましたが、本報告書では消費税込みの金額となるように補正を行っています。

以前の居住形態は「集合住宅・賃貸」が最も高く、半数近くを占める。  
 ここ3年間で「集合住宅・賃貸」が増加し、「戸建住宅・持ち家」が減少する傾向にある。

●以前の居住形態は、「集合住宅・賃貸」が47.1%で最も高く、半数近くを占めており、ここ3年間で増加傾向。一方、次に比率の高い「戸建住宅・持ち家」は18.6%で、ここ3年間で減少傾向。

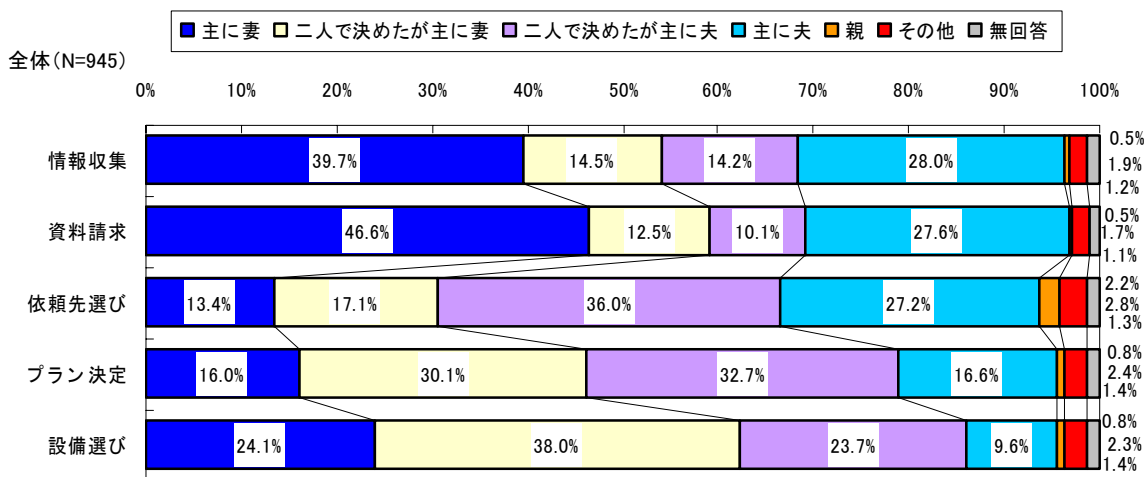
## ■以前の居住形態(全体/単一回答)



住まいづくりの過程における主導権は、初期段階では「妻」。依頼先選びなど、具体的なアクションをおこす段階となると「二人で決める」割合が高くなる。

●住まいづくりの過程における主導権は、情報収集、資料請求という初期段階では「妻」の比率が高く、依頼先選び、プラン決定、設備選びという具体的なアクションをおこす段階となると「二人で決める」割合が高くなる。その中で設備選びの段階になると「二人で決める」割合は高いが、「妻」が主導権を握っている。

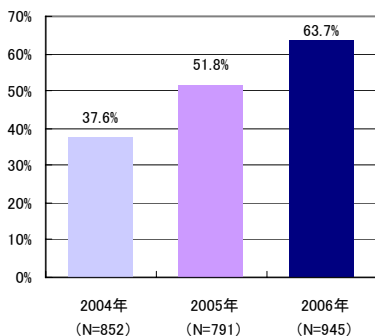
## ■住まいづくりの過程における主導権(全体/単一回答)



オール電化住宅の普及度は63.7%、エコキュートは52.5%、IHクッキングヒーターは70.4%と、いずれもここ3年間で増加傾向。

- オール電化住宅の普及度は、63.7%と、ここ3年間で増加傾向。居住エリア別に見ると、「北関東」、「中部・北陸」、「中国・四国」、「九州」において普及度が高い。
- エコキュートの普及度は52.5%、IHクッキングヒーターの普及度は70.4%で、いずれもここ3年間で増加傾向。

## ■オール電化住宅の普及度(全体/単一回答)

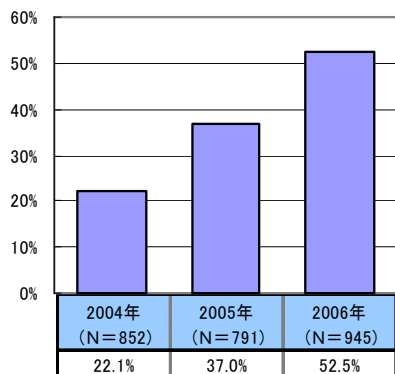


## ■オール電化住宅の普及度:居住エリア別(全体/単一回答)

	調査数	オール電化住宅			
		オール電化住宅である	オール電化住宅ではない	無回答	
全体	945	602 63.7%	329 34.8%	14 1.5%	
居住エリア分類(SA)	北海道・東北	90	52 57.8%	34 37.8%	4 4.4%
	北関東	83	65 78.3%	18 21.7%	0 0.0%
	首都圏	247	128 51.8%	117 47.4%	2 0.8%
	中部・北陸	80	56 70.0%	23 28.8%	1 1.3%
	東海	141	83 58.9%	56 39.7%	2 1.4%
	近畿	137	79 57.7%	54 39.4%	4 2.9%
	中国・四国	89	74 83.1%	14 15.7%	1 1.1%
	九州	78	65 83.3%	13 16.7%	0 0.0%

※全体値よりも5ポイント以上高い割合を占めるものに網かけ。

## ■エコキュート(自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機)の普及度(全体/単一回答)



## ■IHクッキングヒーターの普及度(全体/単一回答)

